

実験室から野生；保存されている適応行動のメカニズム

From Lab to Wild: A Conserved Mechanism for Adaptive Behaviors

原田 征弥 先生

Postdoctoral Researcher

University of California, Berkeley (Stephan Lammel Lab)



日時：2024年7月29日（月）午後4時半～午後6時

場所：神戸大学大学院医学研究科 研究棟B・2階 共同会議室

適応行動は外敵の存在する現実世界で生き延びるために必要不可欠である。しかし、神経科学の研究は人工的な環境で育った実験動物を用いることが多い。本研究では、複数の実験用マウス系統と野生のマウス系統の行動とその神経メカニズムの違いを精査する。通常の実験動物の飼育環境では外敵は存在しないため、そのような環境で何世代も飼育されてきた実験動物は野生の動物とは異なった適応行動を示す可能性がある。本研究により、実験用系統と野生系統の違いを理解し、神経科学分野での広範な理解が進むことが期待される。

【参考文献】

Harada M, ..., Patriarchi T. Stimulation of VTA dopamine inputs to LH upregulates orexin neuronal activity in a DRD2-dependent manner. *Elife* 12, RP90158 (2024).

Harada M, ..., Lüscher C. Corticostriatal activity driving compulsive reward seeking. *Biol Psychiatry* 90, 808-818 (2021).

主催：神戸大学メディカルトランスフォーメーション研究センター（担当：薬理学分野 078-382-5443）